

## 清水麻理子さんが、 第8回「園田・加納賞」受賞

取材：編集部

優れた演劇作品の音響プランナーに贈られる昨年度の第8回「園田・加納賞」は、オフィス新音の清水麻理子さんが受賞、6月21日の定時総会後に贈賞式を行いました。

清水さんは、1997年の新国立劇場立上げ時から主に小劇場での演劇作品のオペレートを担当、無類の読書好き、演劇好きということもあって、ストーリーのうねりや核心を直感的に捉える力に優れ、プランナーの思いを聞かずとも理解し、音にする様子を、当時、筆者も同僚として目の当たりにしていました。

その後、当然のようにプランナーとして活躍し、今回の受賞へと至ったわけです。

(編集部:吉澤真)



受賞者の清水麻理子さん(中央)と、オフィス新音の内田誠さん(左)、渡邊邦男表彰委員長(右)。3人とも新国立劇場立上げメンバー

## 【プロフィール】

清水 麻理子(しみず まりこ)

東京都出身。1991年、オフィス新音に入社。高橋巖、井上正弘のもと、演劇、ミュージカルの数多くのオペレーターを経験。その後プランナーデビュー。

大変な読書家の上、絶対音感を持ち、幼少期よりピアニストを目指して鍛錬した経緯の持ち主で、文学的センスと音楽的センスの両方をふんだんに活かした音創りで、幅広い作品を手掛けている。

近年では、すぐれた演出家たちと共に、多岐にわたる作品プランを多数手掛ける。

2023年の作品に、『ダブル・トラブル』（ウォーリー木下演出）、『エドモン』（マキノノゾミ演出）、『オイディプス王』（石丸さち子演出）、『エブリ・ブリリアント・シング』（上田一豪演出）、音楽劇『ピーターとオオカミ』（鈴木勝秀演出）、また最近の作品に『カラカラ天気と五人の紳士』（加藤拓也演出）、ミュージカル『チャーリーはどこだ!』（中屋敷法仁演出）、『POLTERGUIST』（村井雄演出）などがある。

## ❖授賞理由

もって生まれた音楽的才能と、読書家として蓄えた知識、何より演劇が大好きであり、オペレーターを長年経験した後にプランの仕事を手を徐々に増やし、近年は優れた演出家とも何本も仕事をし、多岐にわたる音響プランで称賛を受けている。(渡邊邦男表彰委員長)

## ❖清水さんの喜びの声

オフィス新音に入って35年経ち、先輩の皆さまに愛情いっぱい育てて頂きながら、このようにありがたい賞を頂くことができました。

た。本当に嬉しく思います。

この度は、ありがとうございました。

※今後の更なるご活躍をお祈りします。おめでとございました。



## ❖「園田・加納賞」とは

当協会の前身の一つ『日本演劇音響効果家協会』（1976年設立）の初代理事長であった園田芳龍氏と初代監事であった加納米一氏の名を冠した「園田・加納賞」は、お二人の逝去後に御遺族から頂いた寄付金を基金とし、顕著に活躍された音響効果家を顕彰するものとしてリスタートしました。

- 2017年(平成29年) 第1回受賞者：島 猛(座・高円寺 音響監督)
- 2018年(平成30年) 第2回受賞者：坂口 野花(東京演劇音響研究所)
- 2019年(令和元年) 第3回受賞者：長野 朋美(オフィス新音)
- 2020年(令和2年) 実施せず
- 2021年(令和3年) 第4回受賞者：吉川 安志(人形劇団ブーク)
- 第5回受賞者：井出 比呂之(井出舞台音響)
- 2022年(令和4年) 第6回受賞者：小幡 亨(エディスグローブ)
- 2023年(令和5年) 第7回受賞者：尾林 真理(good morning N°5)